

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル1：活火山であることに留意）が継続＞
十勝岳で一時的に火山性地震が増加し、傾斜変動を伴う火山性微動が発生しました。

長期的には、噴煙高の高い状態、地熱域の拡大や温度上昇、地震の一時的な増加など、火山活動の活発化を示唆する現象が観測されていますので、今後の活動の推移に注意が必要です。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況（図1～3）

20日11時30分頃から振幅の小さな火山性地震が一時的に増加し、13時までに56回（速報値）を観測しました。その後は少ない状態で経過しています。また、12時43分から継続時間約4分40秒の振幅のやや大きな火山性微動が観測されました。この火山性微動や火山性地震は62-2火口付近の浅い所で発生したと考えられます。

62-2火口近傍に設置した傾斜計では、20日10時頃から62-2火口方向が上がる傾斜変動が観測され、その後、12時49分頃から62-2火口方向が下がる動きに転じました。なお、2019年11月1日から5日にかけて観測された傾斜変動と比べて、変化量は3分の1程度でした。

監視カメラによる観測では、62-2火口等の噴煙・噴気の様子は悪天のため不明です。また、空振計のデータに変化はありませんでした。

長期的には、噴煙高の高い状態、地熱域の拡大や温度上昇、地震の一時的な増加など、火山活動の活発化を示唆する現象が観測されています。

この火山活動解説資料は、札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、北海道大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

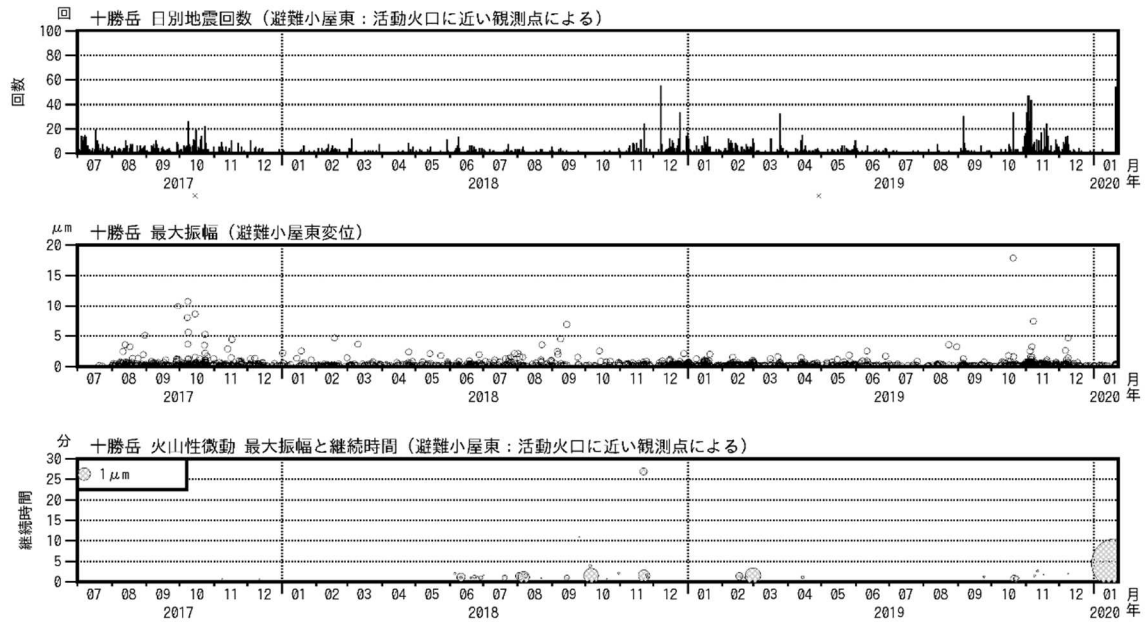


図1 十勝岳 火山性地震および火山性微動の発生状況 (2017年7月～2020年1月20日)
避難小屋東地震観測点における変位振幅 $0.1\mu\text{m}$ 以上、S-P2秒以内の地震を計数しています。

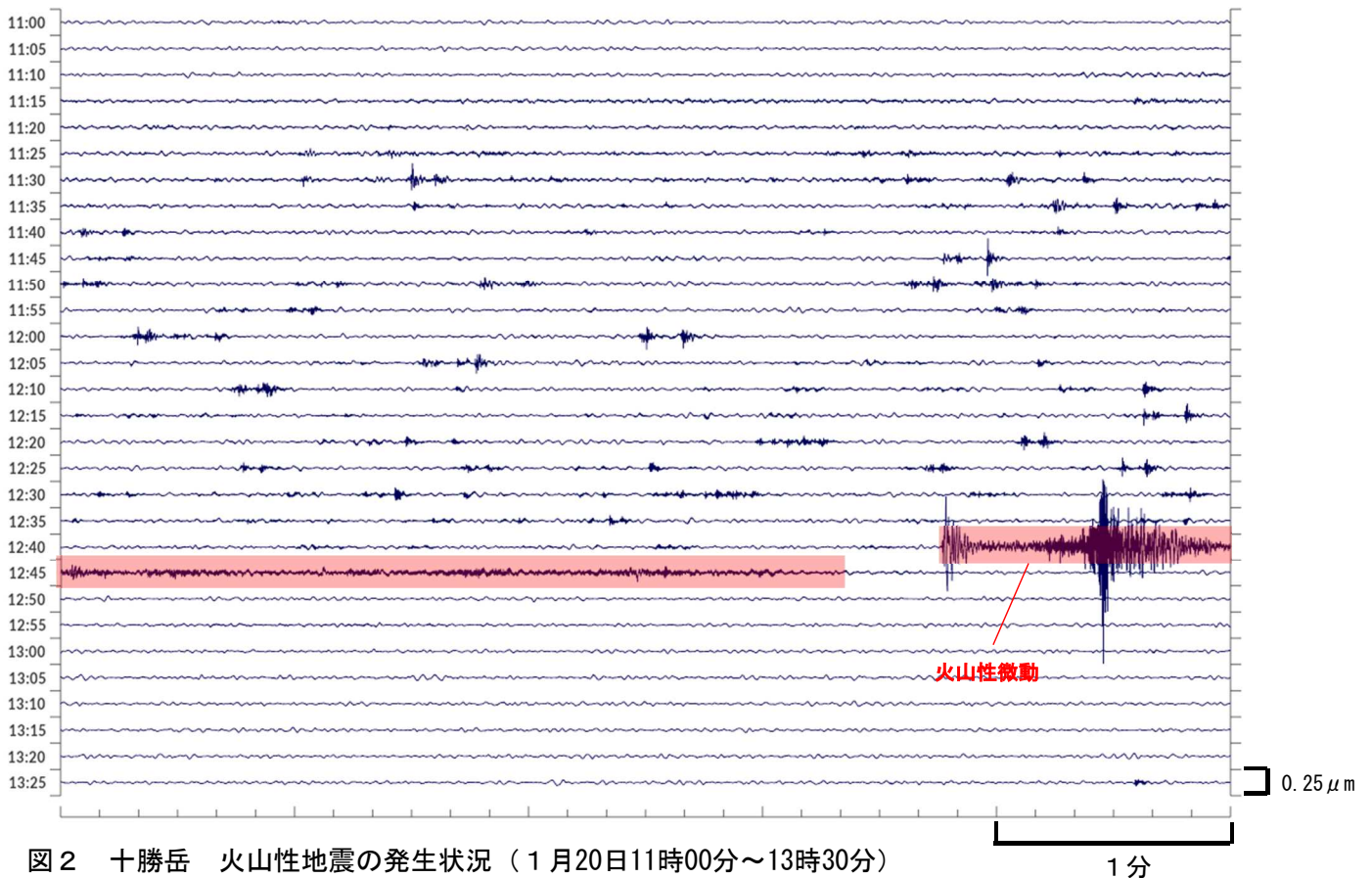


図2 十勝岳 火山性地震の発生状況 (1月20日11時00分～13時30分)
避難小屋東地震観測点における上下成分の変位波形

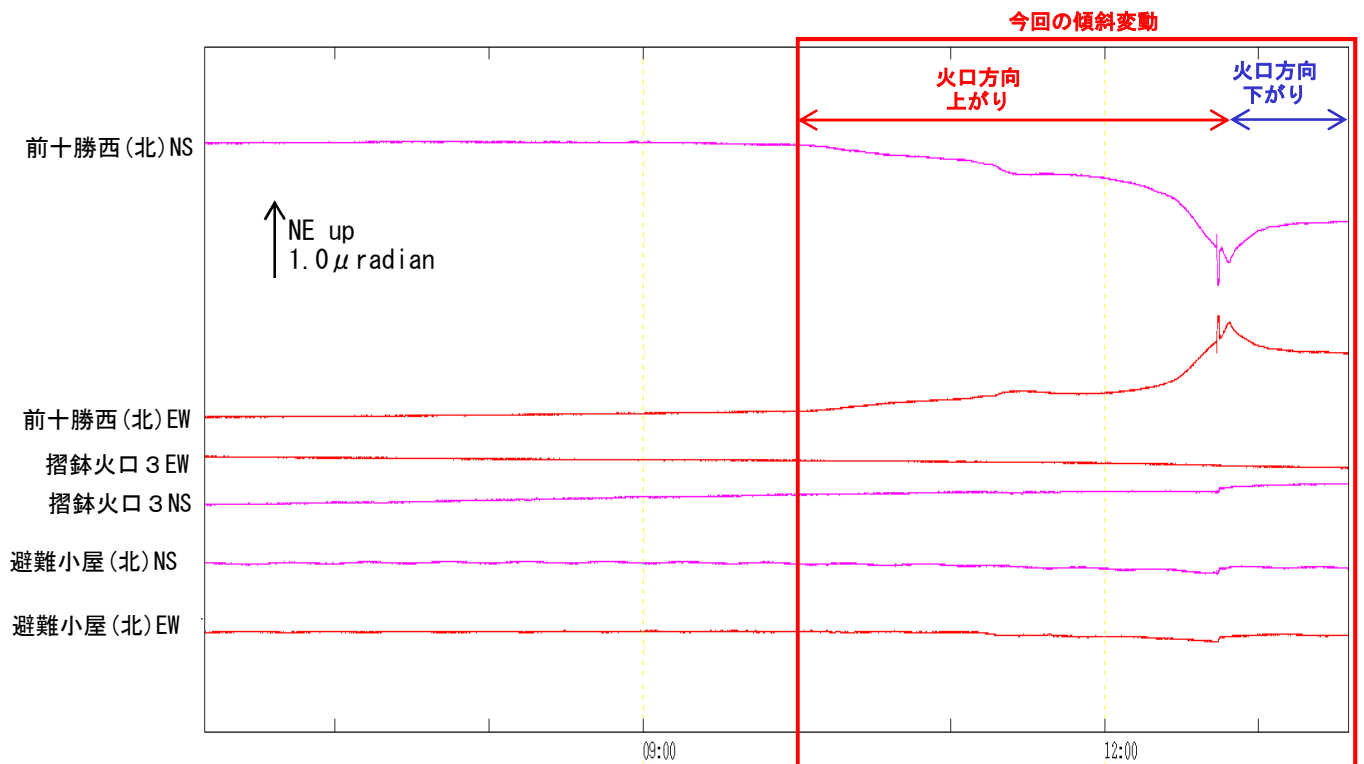


図3 十勝岳 1月20日06時00分から13時35分までの傾斜変動(秒値)

- ・ 1月20日10時頃から62-2火口方向が上がる傾斜変動を観測しました。その後、12時49分から62-2火口方向が下がる傾斜変動を観測しました。

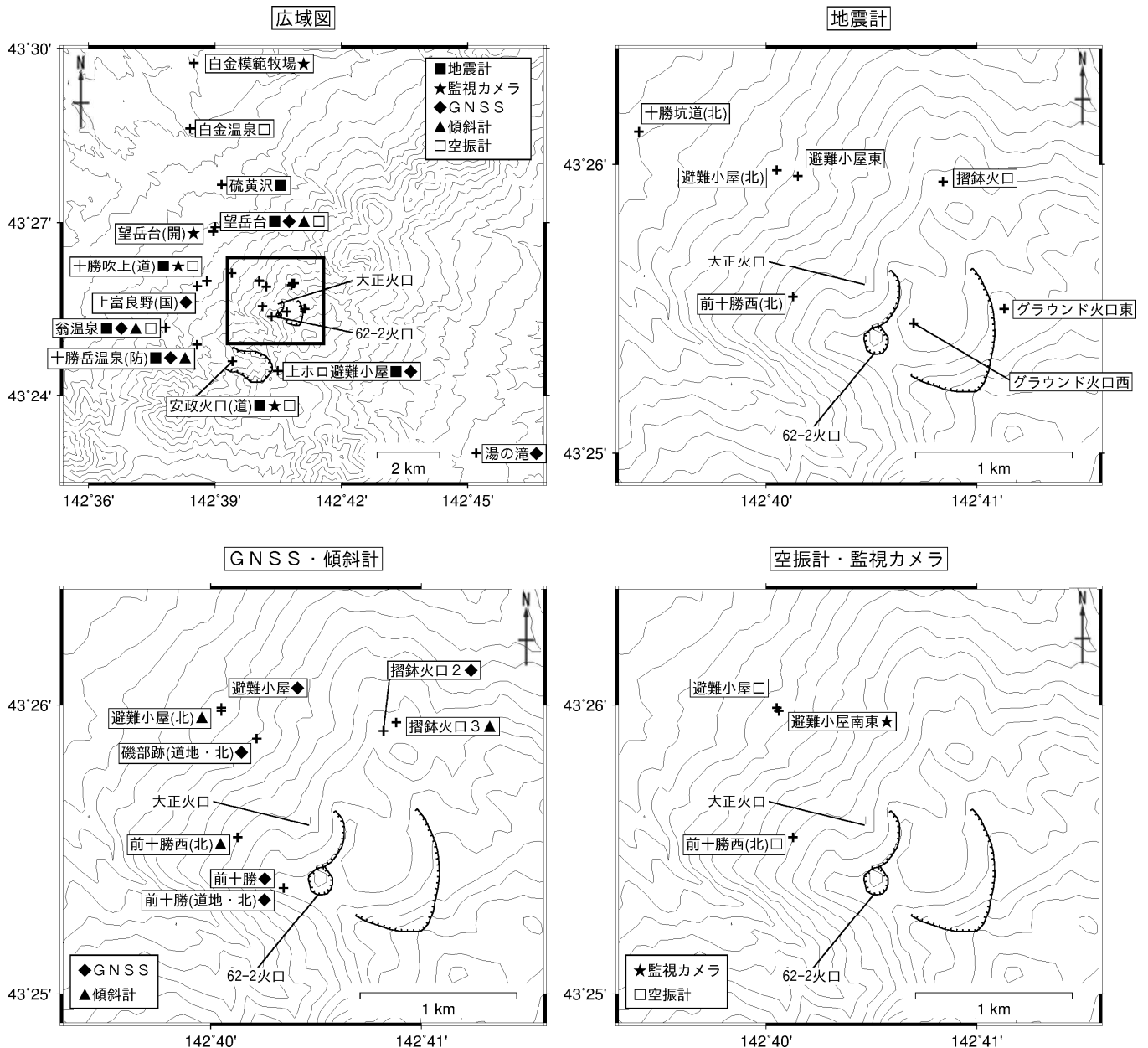


図4 十勝岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の口で示した領域を拡大したものです。

＋印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

- (開) : 国土交通省北海道開発局
- (国) : 国土地理院
- (北) : 北海道大学
- (防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所
- (道) : 北海道
- (道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所